

## 弱さを共有できる 仲間づくり

精神障がい者自助グループ

### ピアネット ふらの



▲※写真はイメージです

**精**神障がい者の自立を支援する「ピアネットふらの（蔵田真名美代表）」が昨年4月に設立されました。「弱さを共有できる仲間づくり」を合言葉に、現在3人のメンバーが精神障がい者の退院後のケアや電話相談、研修会などの活動を行っています。

「アサポーター」と呼ばれる当事者の支援を受け、日常生活を送れるまでになりました。

**「普通に働けない」  
認めるのが嫌だった**

適応障がいと診断され、20年間入院を繰り返してきた蔵田代表は、過去にケースワーカーとして病院で働いていたこともあったそうですが、その後、その後も職場を転々としてきました。「人とうまくできるか不安になって、職場に行けなくなってしまうのです」と辛かった当時は振り返ります。現在は、木人形の製作やレストランのお手伝いをしてる蔵田さん。「自分が普通に働けないっていうことを認めるのが嫌でした。でも、

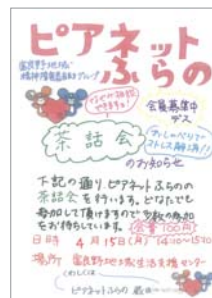


▲ミーティングの様子。和気あいあいとした雰囲気、研修会などの企画を練る

自分の弱さを認めたら吹っ切れました。今度は、自分が苦しんでいる人たちを支援してあげる番」と自らが支援団体を設立。自分の経験をいかし当事者の心のケアに奔走しています。

団体の設立を支援し、また、活動の拠点となっている富良野地域生活支援センターの久田到センター長は、「同じ境遇を体験してなければ共感できないことがある。同じ言葉でも話す相手によって捉え方、伝わり方が違う。そういった意味で、ピアネットふらのの活動の意味は大きい」と強調します。

現在、このセンターに登録しているのは、沿線5市町村で90人ほど。その8割が精神障がい者とのこと。しかし、精神障がいを患い、通院しながらも、こうした支援施設に登録しない方も多く、実態はもっと多いそうです。蔵田代表は、「あきらめないで。行動すれば変わる。不安があれば相談し」と呼びかけています。



▲チラシを作成し、活動をPRするピアネットふらの。問い合わせは、22-3933